

10周年記念講演

テーマ

「コンパッションネートシティ」

※「コンパッションネートシティ」は、地域社会に新たなケアの文化を育て、豊かなスピリチュアリティに根ざした地域社会を作り出していこうという考え方です。エンドオブライフを見据え、幸せな生を全うできる共生社会を、地域住民、専門職、政策が同じ目線にたち育てていくことが重要です。

講師

堀田 聡子 先生 (ほった さとこ)
慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授

日時

令和5年7月2日 (日)
14時～16時30分 (13時30分開場)

会場

北とぴあ13階 飛鳥ホール
(北区王子1-11-1)

対象

区内の医療機関・介護サービス事業所(訪問介護事業所・訪問リハビリ事業所・通所介護事業所等)に在勤で多職種連携に興味のある方
(医師・歯科医師・薬剤師・(訪問)看護師・リハ職・CM・サ責・SW・地域包括等)
今までの研修会等に参加したことがある方、地域づくりにかかわる方

定員

350名 ※定員になり次第、締切とさせていただきます。

お問い合わせ・お申込み

下記URLもしくは右のQRコードから必要事項を記載のうえ、お申込みください。

<https://forms.gle/to4cnLqC6gjUANez6> (申し込みフォーム)

申込み締切 6月19日 (月)

北区在宅ケアネット事務局 生和 (せいわ)

お問い合わせ Mail : training_center@fureaico-op.com



こちらからお申し込み
ください

講師プロフィール



堀田 聡子 氏（ほった さとこ）

慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授
(医学部兼担、認知症未来共創ハブリーダー) 博士(国際公共政策)
京都大学法学部卒業後、東京大学社会科学研究所特任准教授、
ユトレヒト大学訪問教授等を経て現職。専門分野は、ケア人材政策、
人的資源管理、地域包括ケア。



Compassionate city(コンパッションネートシティ)

Compassionate cityの考え方は、社会学者のアラン・ケレハー(バーモント大学教授)によって2005年に発表されました。これは地域社会に新たなケアの文化を育て、豊かなスピリチュアリティに根ざした地域社会を作り出していこうという考え方です。エンドオブライフを見据え、幸せな生を全うできる共生社会を、地域住民、専門職、政策が同じ目線にたち育てていくことだと理解しています。

我が国の在宅ケアは、2012年(在宅医療元年)以来、地域包括ケアにむけて舵をきりました。地域の水平連携、垂直連携を構築する統合をすすめることが国策としてすすめられ、北区でもこの10年間行政や各専門職団体、そして当会などの活動を通して、地域包括ケアシステム構築のために協働してきました。

一方、地域の方々が自らの手によって地域を創っていくということ、エンドオブライフを見据えた施策や街づくりの取り組みは全国的にも、そして北区においてもまだ十分進んでいるとは言えません。

地域包括ケアが国策として唱えられてから10年たち、高齢多死社会と労働力危機、家族機能の脆弱化と社会の複雑化の中で、がむしゃらに専門職が頑張るだけでは太刀打ちできないことはだれの目にも明らかになってきました。

このような中で、2022年10月、アラン・ケレハーの著書が竹之内裕文氏、堀田聡子氏によって「コンパッション都市 ～公衆衛生と終末期ケアの融合～」として監訳されました。エンドオブライフケアのありようから、地域の公衆衛生や公共施策の課題を考え、市民として、専門職として、行政としてともに共生社会のあり方を考える「コンパッションネート シティ」の考え方は、我々が目指す社会にむけての羅針盤として大きなインパクトをもって日本社会に迎えられました。

国が地域包括ケア時代の在宅ケアに舵をきって10年、そして北区在宅ケアネット誕生から10年の節目に、監訳者のお一人であり、地域包括ケアのオピニオンリーダーである堀田聡子先生の講演会を開催できることは望外の喜びです。

世話人一同、皆様のご参加をお待ちしております。

北区在宅ケアネット 共同代表世話人 平原佐斗司